

困難によって希望を見出す

マリノ E. デハクト Jr.

海は人間を魅了するものです。人は海の破壊的な力と美しさに魅了されますが、その破壊的な力が恐怖を引き起こす時もあります。海は人間には手に負えない力があるからです。聖書の中でも同じようなイメージがあります。創世記では神様は混沌のイメージで海の力を支配され、出エジプト記ではユダヤ人たちがエジプト軍から逃げられるように神様は海を分けられました。ヨハネの黙示によれば新しい天と新しい地には海はないと聖ヨハネは幻の中で見ました。聖マルコの福音書、第4章39節では自然の力もイエス様に従うということを示しています。しかしこの激しい突風というものは教会と個人の問題であると解釈されています。何か大きな問題が起こると、よく嵐に例えられることがあります。私たちは確かにいろいろな問題を体験しています。外から来る問題や、内面から来る問題もあります。内面的な問題と言えば、不安、うつ病、迷いなどです。外から来るものより内面的な問題のほうが危ないと言われています。人間は精神的にしっかりしていれば、どんな問題があっても必ず乗り越えることができます。しかし内面的な精神に問題があれば人間の生きがいを失う可能性が高くなります。御言葉で私たちは内面的な問題に対する解決の仕方を学ぶことができます。御言葉はこの世の問題は嵐と同じように過ぎ去るものだと私たちに思い起こさせます。どんなに強くても嵐は必ず過ぎ去ります。神様は私たちのことを良くご存じで、私たちがどこまで耐えることができるのかお分かりなのです。ヨブ記、第38章11節では神様は嵐に対して「ここまでは来てもよいが超えてはならない。高ぶる波をここでとどめよ」とヨブにおっしゃったように、私たちにもおっしゃっています。時には、私たちは嵐が過ぎ去るまで待たなければなりません。その時、祈ることと教会から離れないようにすることが大切です。大変な状況の中にいる時こそ信仰生活を保たなければなりません。時に「祈りなんか役に立たない」と思うことがあるかもしれませんが、信仰で持ち堪えるべきなのです。また嵐の時、つまり危機を体験している間は仕事を辞めるであるとか、他のところに行ってしまうなどの大事な決断はしないほうがよいでしょう。嵐のない時、静かになった時よく考えて決断をすることが望ましいでしょう。信仰の目によって私たちは困難の中でも希望を見出すことができます。信仰があれば私たちもどんな嵐であっても、壊されるのではなく、より強い信仰者になれるのです。また信仰がある人は見捨てられることはないということは確かなことなのでイエス様を信頼しましょう。